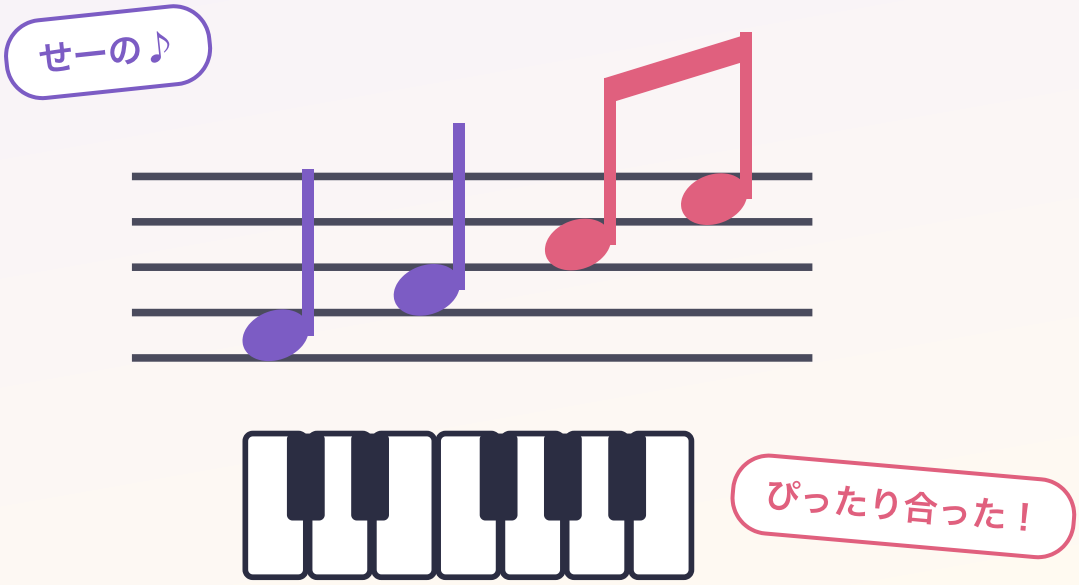
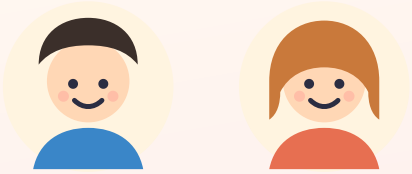


合奏してみよう

音を合わせると、力が何倍にもなる



全30ページ | 無料教材

一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の使い方

1 声と体で感じる
音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょう。

2 本物の音を聴く
この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まります。

3 「やってみよう」は手と体で
答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken（ケン）
音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma（エマ）
カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

合奏を知ろう …… 3〜14
合奏を楽しもう …… 15〜19
練習しよう …… 20〜24
ふり返り …… 25〜30

Lesson 1

合奏ってなに？

何人かで音を重ねると、1人では出せない響きが生まれます。

合奏とは、**何人かで、ちがう楽器やパートを同時に演奏すること**です。1人だけの音とはちがう、厚みのある響きが生まれます。
学校のクラス合奏から、吹奏楽やオーケストラのような大きな合奏まで、規模はさまざまです。



ポイント

- 合奏では、自分のパートだけでなく、全体のまとまりを意識することが大切です。
- 音を合わせるには、練習と、お互いを聴く力が必要です。

やってみよう

1. これまでに経験した合奏を、思い出して書いてみよう。

書いて覚えよう

Lesson 2

パートの役割

それぞれのパートには、役割があります。

パート	役割の例
メロディパート	曲の主役となる旋律を受け持つ
伴奏パート	メロディを支える動きを受け持つ
低音パート	全体を支える低い音を受け持つ
リズムパート	拍やリズムを刻む

ポイント

- すべてのパートが同じ動きをするわけではなく、役割を分担しています。
- 自分の役割を知ると、どう演奏すればよいかが見えてきます。

やってみよう

1. 自分がこれまで受け持ったパートは、どの役割でしたか。＿＿＿＿＿＿＿＿

書いて覚えよう

Lesson 3

メロディ・伴奏・リズム

3つの役割が重なって、合奏の音楽ができています。

伴奏（ばんそう）

accompaniment（アカンパニメント）

メロディを支える動き

ポイント

- メロディだけでは、曲の土台や広がりが足りません。
- 伴奏とリズムが加わることで、曲全体がまとまりのある音楽になります。

やってみよう

1. 好きな合奏曲を1つ思い浮かべ、メロディ・伴奏・リズムのどれが印象に残るか書こう。

_____

書いて覚えよう

Lesson 4

楽器の組み合わせ

楽器の組み合わせ方で、雰囲気が変わります。

鍵盤楽器＋打楽器
はっきりしたリズムの合奏

リコーダー＋鍵盤
学校でよく見られる合奏

弦楽器中心
オーケストラの弦楽合奏

管楽器＋打楽器
吹奏楽の編成

声＋伴奏
合唱と伴奏の組み合わせ

手作り楽器あつめ
自由な発想の合奏

ポイント

- 同じ曲でも、使う楽器の組み合わせによって、印象が大きく変わります。
- 身近な楽器どうしでも、組み合わせしだいで合奏が楽しめます。

やってみよう

1. 自分ならどんな楽器を組み合わせたいか、考えてみよう。

書いて覚えよう

Lesson 5

スコアの見方

全部のパートが1つにまとまった楽譜が、スコアです。

スコア

score（スコア）

すべてのパートがたてに並んだ、合奏用の楽譜

ポイント

- スコアを見ると、今どのパートが鳴っているかが、一目でわかります。
- 自分のパートだけでなく、スコア全体を見る習慣も上達に役立ちます。

やってみよう

1. スコア（合奏用の楽譜）を、本や動画で見たことがあるか思い出してみよう。

書いて覚えよう

Lesson 6

自分のパートを練習

合わせる前に、自分のパートを仕上げよう。

ポイント

- 合奏の前に、自分のパートを1人で正確に演奏できるようにしておきます。
- 自分のパートがあいまいなままだと、合わせたときにずれやすくなります。

やってみよう

1. 自分のパートを、ゆっくりの速さで通して練習してみよう。

ワンポイント むずかしい部分だけを取り出して、くり返し練習するのも効果的です。

書いて覚えよう

Lesson 7

テンポをそろえる

みんなの速さがそろうと、合奏がまとまります。

テンポ

tempo（テンポ）

音楽の速さ

ポイント

- 1人だけ速くなったり、遅くなったりすると、全体がバラバラに聞こえます。
- メトロノームを使うと、一定のテンポを確認しながら練習できます。

やってみよう

1. 一定の速さで手拍子をしながら、自分のパートを演奏してみよう。

書いて覚えよう

Lesson 8

入りのタイミング

音を出し始める瞬間を、そろえよう。



Ken
ぼくのパート、どこから入ればいいかわからなくなるよ。

Emma
前の小節を心の中で数えておくと、入りやすくなるよ。



ポイント

- 自分が入る直前の音や拍を覚えておくと、タイミングを合わせやすくなります。
- 休んでいる間も、心の中で拍を数え続けることが大切です。

やってみよう

1. 自分のパートが入る直前の部分を、声に出して確認してみよう。

書いて覚えよう

Lesson 9

指揮に合わせる

指揮者の合図は、合奏のガイド役です。

指揮（しき）

conducting（コンダクティング）

手や指揮棒で、テンポや表情を伝える役割

ポイント

- 指揮者の動きを見ると、テンポや強弱のヒントがわかります。
- 楽譜だけでなく、指揮にも意識を向けることが大切です。

やってみよう

1. 指揮の動きに合わせて、手拍子をしてみよう。

書いて覚えよう

Lesson 10

音量のバランス

全員が同じ大きさで弾くとは限りません。

ポイント

- メロディパートは目立つように、伴奏パートは支えるように音量を調整します。
- 自分のパートが大きすぎたり小さすぎたりしていないか、耳で確認します。

やってみよう

1. 自分のパートが、メロディか伴奏か確認し、それに合った音量で演奏してみよう。

書いて覚えよう

Lesson 11

ほかのパートを聴く

自分の音だけでなく、まわりの音も聴こう。

ポイント

- 自分の演奏に集中しすぎると、まわりの音が聞こえなくなることがあります。
- ほかのパートを聴く余裕があると、テンポやバランスを合わせやすくなります。

やってみよう

1. 自分のパートを演奏しながら、ほかの人の音にも耳をかたむけてみよう。

ワンポイント 最初は自分の音だけで精いっぱいでも大丈夫。少しずつ、まわりを聴く余裕が生まれてきます。

書いて覚えよう

Lesson 12

まちがえたときの立て直し

止まらずに続けることが、いちばん大切です。

よくない対応

こうなりがち

演奏を止めてしまう
合奏全体が止まる

まちがいを気にしすぎる
次の部分もミスしやすい

よい対応

こうしてみよう

止まらずに続ける
まわりに合わせて再スタート

次の音に気持ちを切りかえる
気にしすぎない

ポイント

- 1人がまちがえても、合奏全体を止めないことが基本です。
- まちがえたら、次の小節から気持ちを切りかえて合わせましょう。

やってみよう

1. わざと1音まちがえてから、すぐに立て直す練習をしてみよう。

書いて覚えよう

Lesson
13-14

合奏の練習の進め方・合奏のマナー

練習の順番と、みんなで演奏するときの心がけを知ろう。

練習の順番	内容
①	パートごとに自分の部分を練習する
②	2つのパートずつ合わせてみる
③	全パートを、ゆっくり合わせる
④	少しずつ本来の速さに近づける

合奏のマナー

時間を守る　**楽器を大切にあつかう**　**人の演奏を否定しない**

みんなで作る時間だからこそ、思いやりが大切です。

やってみよう

1. ①〜④の順番で、知っている合奏曲を練習してみよう。

書いて覚えよう

Lesson 15

小さな合奏（2〜3人）

少人数でも、合奏の楽しさは味わえます。

ポイント

- 2〜3人でも、パートを分ければ立派な合奏になります。
- 少人数だと、お互いの音がよく聴こえ、合わせやすいという利点もあります。

やってみよう

1. 家族や友だちと2〜3人で、かんたんなリズムや旋律を合わせてみよう。

書いて覚えよう

Lesson 16

クラス合奏

大人数の合奏では、まとめ方に工夫が必要です。

ポイント

- 人数が多いほど、テンポや入りのタイミングをそろえる難しさが増えます。
- 指揮者や合図役を決めると、まとまりやすくなります。

やってみよう

1. クラス合奏の経験があれば、うまくいった工夫を1つ書こう。

書いて覚えよう

Lesson
17-18

録音してふり返る・本番の準備

自分たちの演奏を、客観的に聴いてみよう。

ポイント

- 録音を聴くと、演奏しているときには気づかなかった点が見えてきます。
- テンポのずれやバランスも、録音で確認するとわかりやすくなります。
- 本番前には、楽器の準備や並び方も確認しておきましょう。

やってみよう

1. 合奏を録音して、聴き直してみよう。気づいたことを書こう。

書いて覚えよう

Lesson 19

合奏の発表

練習した成果を、人に聴いてもらおう。

曲名	
メンバー	
自分のパート	
がんばったところ	

Ken の例

曲名 練習用のかんたんな合奏曲／メンバー Ken・Emma／**自分のパート リズムパート／がんばったところ 入りのタイミング**

ポイント

- 発表は、うまくいくかより、みんなで合わせられたことに価値があります。
- 終わったあとは、お互いをねぎらう時間も大切にしましょう。

書いて覚えよう

Lesson 20

聴いてくらべよう

2つの合奏をくらべると、ちがいがよくわかります。

くらべるところ	合奏A	合奏B
テンポの安定	そろっている・ずれている	そろっている・ずれている
バランス	よい・かたよっている	よい・かたよっている
使われている楽器	＿＿＿＿＿＿	＿＿＿＿＿＿

ポイント

- 同じ曲でも、テンポの安定感やバランスによって、聞こえ方が変わります。
- 聴きくらべると、合奏で気をつけるポイントが見えてきます。

やってみよう

1. 合奏の演奏を2つ聴いて、表を完成させよう。

書いて覚えよう

Lesson
21-22

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

ひとりでも、みんなでも練習してみよう。

A （一定のリズムを刻む）

B （Aに合わせてメロディを歌う）＿＿＿＿＿＿

A （速さを少し変えて刻む）＿＿＿＿＿＿

B （合わせて歌う）＿＿＿＿＿＿

ポイント

- A がリズムの土台を作り、B がそれに合わせるという役割分担の練習です。
- 交代しながら練習すると、両方の役割の難しさがわかります。

ワンポイント ずれても大丈夫。止まらずに合わせ続けることを優先しましょう。

書いて覚えよう

Lesson
23-24

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきには、共通した原因があります。

つまずき

よくあること

テンポがずれる
自分のペースになっている

入りをまちがえる
拍を数えられていない

音量がそろわない
まわりを聴けていない

コツ

こうしてみよう

メトロノームで確認する
一定の速さを体で覚える

休みの間も拍を数える
心の中でカウント

録音して聴き直す
客観的に確認する

ポイント

- できないところは、部分を区切ってゆっくり練習しましょう。
- 1つずつ直すと、合奏全体がまとまってきます。

やってみよう

1. 自分がつまずきやすいことを1つ書こう。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2. 上のコツから1つえらんで試してみよう。

書いて覚えよう

Lesson 25

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

役割の言葉

- ☐ **メロディパート**
  旋律を受け持つ
- ☐ **伴奏パート**
  メロディを支える
- ☐ **低音パート**
  全体を支える

合わせる言葉

- ☐ **テンポ**
  音楽の速さ
- ☐ **指揮**
  テンポや表情を伝える役割

楽譜の言葉

- ☐ **スコア**
  全パートをまとめた楽譜

練習の言葉

- ☐ **バランス**
  音量の釣り合い
- ☐ **録音してふり返る**
  客観的に確認する方法

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。言葉を知ると、合奏の練習も進めやすくなります。

書いて覚えよう

Lesson 26

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 言葉と意味を線でむすぼう

テンポ	ア. メロディを支える動き
スコア	イ. テンポや表情を伝える役割
伴奏	ウ. 音量の釣り合い
バランス	エ. 音楽の速さ
指揮	オ. 全パートをまとめた楽譜

2. 音楽の速さのことを何というか書こう

1. _____

3. 手や指揮棒でテンポや表情を伝える役割を書こう

1. _____

書いて覚えよう

Lesson 27

ふり返りチェック

できるようになったことを確かめよう。

☐	自分のパートの役割が言える	メロディ・伴奏・リズム
☐	一定のテンポで演奏できる	テンポの安定
☐	入りのタイミングを合わせられる	拍を数える力
☐	まちがえても止まらずに続けられる	立て直す力
☐	ほかのパートを聴きながら演奏できる	全体を聴く力

ポイント

- ✓がつかなかった項目は、もう一度そのページにもどってみましょう。
- 少しずつできることが増えれば十分です。

書いて覚えよう

Lesson 28

家でできる練習

毎日少しずつ、合奏の力を育てよう。

朝
一定のテンポで手拍子をする

休み時間
自分のパートを声に出して確認する

帰宅後
メトロノームに合わせて練習する

夕方
録音して聴き直す

夜
合奏の音源を聴く

週末
家族と小さな合奏をしてみる

ポイント

- 1回5分でも、毎日続けることが合奏力の近道です。
- 録音を聴くときは、良いところにも注目しましょう。

書いて覚えよう

Lesson
29-30

発表してみよう・感想を書こう

合奏の経験を、自分の言葉でふり返ろう。

曲名	
メンバー	
がんばったところ	
聴いてほしい人	

Emma の例

曲名 練習用のかんたんな合奏曲／メンバー Ken・Emma・家族／がんばったところ テンポをそろえること／聴いてほしい人 学校の友だち

感想を3文で書こう

① この合奏をして、〜な感じがしました。② とくに、〜のところをがんばりました。③ 次は、〜に挑戦したいです。

書いて覚えよう

Lesson
31-32

もっと知りたい人へ・次のステップ

合奏の世界は、まだまだ広がります。

もっと知りたい人へ

演奏会へ
オーケストラや吹奏楽を聴きに行く

動画で
指揮者の動きに注目して見る

部活動で
合奏を続けられる場をさがす

次のステップ

リズムパターン
合奏の土台になるリズムを知る

指揮
自分で合図を出してみる

作曲
自分の合奏曲を作ってみる

ポイント

- この教材の次は「リズムパターン」。合奏を支えるリズムの型を、さらにくわしく学びます。

書いて覚えよう

Lesson 33

学んだことをまとめよう

この教材で学んだことを、自分の言葉でまとめよう。

まとめ　自分の言葉で書こう

1. 合奏とは、どんなことだと思いますか。＿＿＿＿＿＿＿＿
2. いちばん大切だと感じたことは？＿＿＿＿＿＿＿＿
3. これから挑戦してみたいことは？＿＿＿＿＿＿＿＿

合奏ミッションカード

MISSION 1
毎日5分、一定のテンポで練習する

MISSION 2
家族や友だちと小さな合奏をする

MISSION 3
自分の演奏を録音して聴く

MISSION 4
合奏の音源を1曲じっくり聴く

できたミッションに✓をつけよう：　☐1　☐2　☐3　☐4

書いて覚えよう

Lesson 34

合奏してみようチャレンジ

教室の外でも、合奏はすぐに楽しめます。

合わせよう

家族や友だちと一定のリズムを刻む

役割を作ろう

メロディ役とリズム役に分かれる

録音しよう

合わせた演奏を録音して聴いてみる

こたえ

L26 テンポ→エ スコア→オ 伴奏→ア バランス→ウ 指揮→イ　2. テンポ ／ 3. 指揮者（指揮）

L33 （例）合奏は、それぞれのパートの役割を知り、テンポとお互いを聴く力で1つにまとまる。

書いて覚えよう

合奏してみよう（Season 4 ｜ No.40）
発行：一般社団法人文化芸術支援協会
この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。
有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。
くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。